

59 最後のニホンオオカミ —それは奈良県で捕えられました—

美紀さんお手紙ありがとう。家族みんなでドライブ、元気に飛び回っているコウノトリを見られて良かったですね。兵庫県立コウノトリの郷公園はおじさんも行ったことがあります、今だともっと数が増えているのでしょうか。「コウノトリが生活できる自然環境を取り戻そう」と農薬を使わず餌になるドジョウやカエルが生息できる田んぼにし、巢となる高い木が茂る山林を残すというように努力してきた成果ですね。おじさんもお土産に無農薬栽培のお米を買ってきました。

さて、このようにうまくいった例とともに、どんどん減っている動植物、そして、とうとういなくなった生き物もいます。その1つがニホンオオカミです。美紀さんは「そんな怖い動物いなくなってもいいんじゃない？」というのですが、オオカミも生態系の一員、この絶



滅で増えすぎた動物による害もあります。生態系の維持というのはなかなか難しい問題なのです。

さて、「明治38年に東吉野村で捕えられた最後のニホンオオカミの像が建っているよ」と聞いて行ってみました。役場から少し走った所に目的のニホンオオカミの像があり、次のような説明がありました。

ニホンオオカミは、明治の初めまで、本州・四国などにかかなりの数が生息していたようですが、その後急減し、明治38年（1905年）東

吉野村で捕らえられた若雄のニホンオオカミが日本で最後の捕獲の記録となりました。

当時ここ鷲家口（わしかぐち）の宿屋芳月楼で地元の猟師から、英国より派遣された東亜動物学探検隊員米人マルコム・アンダーソンに 8 円 50 銭で買いとられ、大英博物館の標本となっています。

この標本には、採集地ニホン・ホンド・ワシカグチと記録され、動物学上の貴重な資料となっています。

かつて台高の山野を咆哮（ほうこう）したニホンオオカミの雄姿を、奈良教育大学教授 久保田忠和氏の手により、等身大のブロンズ像として再現しました。

緑と水のふるさと・東吉野村の自然愛護をねがうシンボルとしていきたいものです。 昭和 62 年（1987 年） 東吉野村

また、ここには生物学の研究をなさっていた昭和天皇もお出でになっており、行幸の記念碑には合併前の小川村という字が刻まれています。

ところで、ニホンオオカミについては、橿原市立昆虫館が特別展を開催し、国内の大学などから集めた標本が展示されたことがありました。大英博物館だけと思っていたのに、国内にもあったのか、と見に行ったことを思い出します。

帰りには東吉野村平野にあるたかすみ温泉に入って、今日 1 日のことを思い出しながら、この自然を貴重な遺産として大切にするとともに、今生きている動物が、こんな姿（はく製や骨格標本）だけにならないように気をつけていきたいものだと思います。

ちょっと不便な所ですが、温泉好きのお父さんのお仕事が休みの日

に、ドライブをおねだりしてはどうですか。

(平成 23 年 11 月・中学校 1 年生の美紀さん宛て)

スポットの案内

ニホンオオカミの像があるのは東吉野村小川で、村役場から南西に少し行った所です。資料は東吉野村役場でいただけます。電話は 0746-42-0441 です。

理科のワンポイント「レッドデータブック」

絶滅のおそれのある野生生物をリストアップ、その現状などを取りまとめたものをレッドデータブックといいます。国際自然保護連合（IUCN）のそれは世界的な規模でまとめたもの、環境省が取りまとめたものは日本全国を対象にしたものです。奈良県でも「奈良県版レッドデータブック」を作成するため現地調査が行われ、文献や標本で確かめ、聞きとり調査も行われました。そして、「大切にしたい奈良県の野生動植物－奈良県版レッドデータブック－」として脊椎動物編、植物・昆虫編の 2 冊が刊行されています。

脊椎動物編では、絶滅種としてオオカミ、カワウソの 2 種があげられています。カワウソは 1949 年に吉野郡下北山村で生息が確認されたのが最後です。絶滅寸前種にはツキノワグマ、イヌワシ、モリアオガエル、ニホンバラタナゴ、アユなど 17 種、アユなんて大勢



の人が釣っているのにおもわれますが、ここでいうアユは海から遡上（そじょう・流れをさかのぼること）してくる天然のアユのことです。今、多くの人が釣っているのはほとんどが漁業協同組合によって放流されているアユなのです。

絶滅危惧種も 48 種、そして、希少種とされているのが 69 種、これには昭和 41 年、県民投票で「県の鳥」に指定されたコマドリも入っています。メダカも希少種ですが、県内では奈良盆地の水田やため池を中心に比較的安定しているそうです。このほかに郷土種が記載され、これには奈良のシカ、斑鳩町やいかるがの里などの名前のもとになったイカル（スズメ目、アトリ科の鳥です）やオオダイガハラサンショウウオ、東大寺鏡池、石上神宮鏡池だけで繁殖しているワタカの 4 種があげられています。

植物・昆虫編では、種子植物とシダ植物をあわせた維管束植物の中から 759 種が取り上げられ、絶滅種 34 種、絶滅寸前種 256 種、絶滅危惧種 210 種、希少種 221 種、情報不足種が 32 種とされています。ほかに、注目種が 6 種、郷土種としてはナラノヤエザクラがあげられています。

多様な生物が調和をもって暮らしている、暮らすことのできる世界、そうした世界が求められているのです。